

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 ひびきの 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

#### 教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

#### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

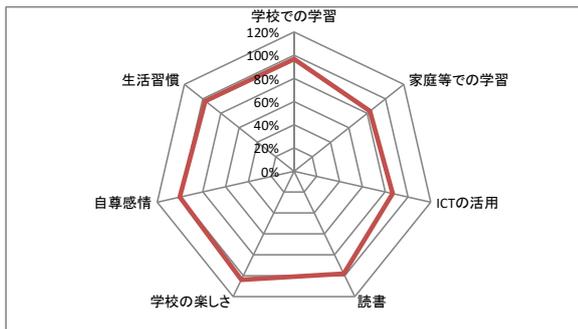
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均とほぼ同程度である。「書くこと」の領域に関する問題は正答率が高く、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域に関する問題に課題が見られた。漢字を正しく使うなど、基礎的・基本的な内容の定着を図る必要がある。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題 ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題	
	努力が必要な問題	・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題 ・話し合い活動の中で、登場人物の発言の理由として適切なものを選択する問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均とほぼ同程度である。「数と計算」の領域に関する問題は正答率が高く、「変化と関係」の領域に関する問題に課題が見られた。特に割合に関する問題に課題が見られ、定期的に復習をする機会を設ける必要がある。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	・示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題 ・示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題	
	努力が必要な問題	・示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断する問題 ・百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均とほぼ同程度である。「粒子」の領域に関する問題は正答率が高く、「エネルギー」、「生命」、「地球」の領域に関する問題に課題が見られた。また、「自分の考えをもつ問題」に課題が見られたので、実験結果を基に、考察したり、本時のまとめを自分で書いたりする時間を設定する。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	・実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつ問題 ・実験器具の名称を問う問題	
	努力が必要な問題	・問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつ問題 ・結果を分析して、自分の考えを記述する問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校が楽しい」、「自分にはよいところがある」と答えた児童が全国平均を上回った。「友達のよいところ見つけ」等の互いを認め合い、褒め合う取組などの成果であると考えられる。</li> <li>・「家庭等での学習時間」が全国平均を下回った。家庭学習の大切さを周知する必要がある。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字練習の機会を多く取り入れたり漢字テストを適宜実施したりして、児童の定着度を確認する。また国語科の話し合い活動の際には、友達の意見に共感したりまとめたりする言葉を適切に使うように指導し、授業の終末において、そのような言葉を使うことができたか振り返るようにする。</li> <li>・算数科の単元末の「たしかめましょう」の学習の際に、割合や図形の問題など、学習頻度の少ない内容を復習する機会を設ける。</li> <li>・理科では、問題解決学習の流れを確認し、自分の予想(仮説)を確かめるための実験方法を考えさせたり、結果から分かることを考察し、本時のまとめを自分で書く時間を確保したりする。</li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習時間の目安を学校通信や懇談会等で周知したり、よい自主学习ノートを教室等に掲示したりして、家庭学習の充実を図る。</li> <li>・携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をする時間が全国平均に比べ、わずかに多い。「スマホ・ケータイ安全教室」と関連を図り、健康に及ぼす影響等をあらゆる機会を通して、児童や保護者に伝えるようにする。</li> </ul>
---